



みずつか

6

「水」がテーマのアンソロジー
2020年初夏



mizutsuki 9
<http://kohagiuta.com/design/mizug/>



あおきさ 青時	かじわうしょうせい 梶原翔星	たむらほだか 田村穂隆	まおかまな 眞岡まな
あおひじこのは 青藤木葉	かどわさあつし 門脇篤史	たろりずむ	まちあおあお 街田青々
あきやまきいと 秋山生糸	がね	うはうこはぎ 千原こはぎ	まみずのは 真水翅
あまづ 甘酢	かれいど 涸れ井戸	chari	みかげことは 深影コトハ
あめのうずの 天野うずめ	きょうのばんだ 京野パンダ	つきおかないる 月丘ナイル	みつしません 満島せしん
あめかうししひう 雨虎俊寛	げんそうあおぞ 幻想青瀬	つがらまんげつ つぶら満月	みみ 衣未
あうたなのい 新棚のい	こごともり 漕戸もり	とうだらひろ 橙田千尋	みやじまいつく 宮嶋いつく
ありうきさきょう 有村桔梗	こすみやう 小泉夜雨	ドーナツ	みやや みやや
いかごなおか 五十子尚夏	ごてんやまみなみ 御殿山みなみ	とみいえひろこ	むしたけかずとし 虫武一俊
いしかわじゅんいち 石川順一	こんむう 紺村	なかむらせいじ 中村成志	もよりえさ 最寄ゑす
いそやまたけし 磯山武士	さいとうさと 西藤智	ナタカ	もりかわはると 森川晴
いづみつ 伊豆みつ	さかがぬ	なうらはうち 榎原もか	やスがしょいち 八重柏誉一
いねづかあかり 犬塚晶加里	さんこずえもにお 三梢モニオ	なるみ 成美	やまがみあきえ 山上秋恵
うそだみやこ 宇祖田都子	しまださくらこ 嶋田さくらこ	にう	やまかりさくく 山川築
うちやまゆうさき 内山佑樹	しゃーちゃん 西鎮	にしじゅんこ 西淳子	よるよなかさりとで 夜夜中ざりとで
えいじ 泳二	しゃくやく 芍薬	にしむらはるき 西村春希	りりー
えだまのみどり 枝豆みどり	じやくまめ 雀來豆	ぬまじりつたこ 沼尻つた子	ルオ
おおはしさるこ 大橋春人	すずきともこ 鈴木智子	はっか 薄荷。	
おおもりちさと 大森千里	すわあかり 諫訪灯	はるなじゅうや 春名柊夜	
おかだなざこ 岡田奈紀佐	せんじょううひろ 千伎千絢	かくやまもむか 福山桃歌	
かいざわしゅんいち 貝澤駿一	ソウシ	かじむらうないこう 藤村内向	
かいぜん @kaizen_nagoya	たえなかすず	かじもりみさき 藤森岬	
かざえ	たかこ 多香子	ふらみらり	
かじはらかずと 梶原一人	たさぐらみわ 瀧口美和	ふるーうえとふみの ブルーウェットふみ乃	

ご 参加
いただいた
皆さま

(五十音順 敬称略)

はどうしてプリズム

みずつか 9

89名による534首の「水」がテーマのアンソロジー

透き通る水面のような影落とす君のまつげに魚は群れる
近くより遠くで見る海が好きそうだね君の愛はあたたか
海岸の浅瀬でじやれるような日々水面の光に君は溶けてく
雨の日の曇るガラスに指で書くあなたの名前そこだけ透明
この雨は置き忘れた傘たちが流した涙君の街にも
雨のあと靴も履かずに走り出す虹のプリズムまだ逃げないで

青藤木葉 @konoha_ao

青として、恋のよくな

最初から一人ぼっちの恋だから大海原で赤い糸噛む

三日月の舟ごと沈む切なさはシーツの波に寄せては返す
うつつとは思えぬ夜の瀬から庭の白露止めどなく編む

思い出すのはその広い春のような背中ばかりで 雨柔らかに
あなたとの距離は百里を越えるから洗面台で月を映して

車窓から海が見えたら青として生きよ 終点三崎口駅

水際

ざるん、波はゆるく流れはすみやかにごらん、奈落がこんなに近い
綺麗事ばかりつぶやく冬の海にもペンギンが浮いててほしい

見いだせば透明だった傷口の水にわずかに朱がさしている

あこがれは潰えて石にはりついたボリュームつかはまた海へゆく
西空に三日月ひかるそのうえにねむるたましいふたつ さえぞえ
夕暮れて光減りゆく波ぎわの「一ほーむ、の一、ごーほーむ、ごー

青時 @madobbenoumibe

秋山生糸 @kiito25

水色

水色の下着を選ぶ風呂上がり品質表示が肌に優しい
テキストの表紙は薄い水色で床に流れてゆく明朝体

ネクタイが水色だったことだけを除いて何も覚えていない
水色の付箋を貼つたまま君が私に返す 1Q84

バーゲンで結局買った水色のスカートを履く前のさよなら
サンダルを履いて扉を開いたら踵に触れる夏は水色

中之島

ワイパーがきかなくらい打ちつける雨とライオン橋を渡った
冷凍庫に一袋だけ残つてた青い氷菓を折つて分けあう

いままでの豪雨がまるでウソみたいカーテンの下は波うつひかり
土佐堀の遊歩道の水溜まり手を離さずにふたりはよける

コンビニの袋の中は虹色に「ほろよい」たちで満たされている
きみのこと見てているだけでよかつたのに夏の短さ知っていたのに

甘酢 @azukicreamcup

雨虎俊寛 @amefurashi3107

歩くスピードが僕だけ違う

出しきれず残つてしまつた語尾がある溺れるときはいつも同じだ

カルピスが欲しいとかつて言えなくていつも笑つて頷いている

僕だつて夢を叶えたかったんだ余つた醤油をそのまま捨てる

液体の流れに逆らい歩いてく明るいだけのイオンモールは

水溜り映る全てを愛したい僕が滅んでしまつた後も

痛いつて感情以外捨てました體液を持つ生き物として

天野うづめ @uzume_no_hijiri

しゅわしゅわ

サイダーのCMみたいな夏服のきみが飛び跳ね僕を追い越す

「好きです」と主語なく叫んだ告白あわれ玉碎フルーツパンチ

午後の庭アールグレイのティーソーダかよわくもないわたしのために

ビール飲むきみに合わせて大人ぶるジンジャーエールは辛くて苦手

雨の朝別れの予感躲そうとレモンスカッシュわざと選んだ

あさみどりメロンソーダはうたかたの炭酸弾け命はかなく

新棚のい @hccmono

雨衣

五月雨と水虫

陸橋をのぼりつめたるわたくしの膝まで夜の雨は匂ひぬ

ふかくふかくきみに見せない奥処までゆきわたらせる桂花烏龍

まよなかの雨に濡れるあぢさゐを名前で呼べなまなまとして

濡れてゐる 記憶の襞にしまはれたいつかの夏の私雨わたくしのあめに

やはらかな拒絶 わたしとひびと呼べないひとのあひだに雨は

あめをどこひとつそりと来てにはたづみひとつつくつて帰つてゆきぬ

有村 桔梗 @chattenoire_k

石川順一 @Hitler57

フェノールフタレインの潮騒

あなたほどの人がと問われ続けてもわたくしはまだ紫陽花のなか

手折るとは仕種にあらず水仙の夢きを言うことばと思う

花水木のいざれにせよ我に告げられざりし愛ひとつあり

朝焼けの渚にやがて朽ちてゆく人魚が愛していたジミーチュウ

星月夜のひかりにほどく黒髪にフェノールフタレインの潮騒

アミラーゼが夜の濃度を狂わせてゆけりあなたの舌に触れれば

かる里

青年は何を見ているほおづえをつきて眺める湖のかなたに
霞立つ静かな池の残り鴨波紋ひろげて小さく鳴きたり

空うすぐむらさきがかる夕まぐれ波影ほそく残り鴨うく

田植えすむ水面に映える夕焼けの里の姿を絵に残したり

田植えすむ水田にうつる伊吹嶺の影をゆらして残り鴨うく

鯉あまた泳ぎてにじる古寺の池にま白きすいれんの花

水虫で皮膚が崩壊膿の巣を思ひだしても心は晴れず

紫陽花は大輪となり五月雨を恵まれ続けて色を増し行く

水虫の皮膚崩壊が悲しくてお經の暗記に勤しむつもり

四階で他人の詩集を読んで居る五月雨の音をシャットダウンし

句集読み詩集を読めば山田町比良の住所に雨がしみ込む

梅雨曇りシャワーの様な夕立が父の農業服を濡らせり

五十子 尚夏

磯山武士 @takechan185

傘の骨

透明なコップじゃないわ

優しくはないな。どこにも行かないでほしいあなたに傘を差しだす
なんにでも繋りたくなる日はあつて『星の辞典』をめくるのもそれ
ほんたうと思へないので紫陽花のくにへあなたが旅立つことを
傘の骨はうつくしく伸び両腕をひろげたわたしなど及ばない
ふつくみでものなじ書けば「それなんの意味があるの」と梶子は言ふ
秒針の音は降りやむこともなくわたしはここにずっと暮らすの

伊豆みつ @izmit_tanka

宇祖田都子 @Shininsyutu2020

わたしはスピカ

丸さやかな／生活 2

海の底沈んでもきつとあおく光るわたしはスピカただの目印
お湯の中からだを丸く沈めると街が見えるよエーテ海の
眠りたる頬にしづくがこぼれ落つ月の光ははるかな速さで
えひもせずふいに涙がこぼれたりみんなみなきつと月のせい
金星と地球がおどる軽やかに朝露こぼれる薔薇の一息
葉脈をなぞりて落つる玉しづく待ち構えるは土星の輪つか

犬塚晶加里 @a_riri0506

内山佑樹 @rewolfnoomwans

透明なコップじゃないわそがれたあなたの水は透明だけど
ぱちやんとかちやばんとかいうだけなのよ蛙の飛び込む水音なんて
オフェーリアが流れていくわせせらぎが聞こえる真夜中のマンホール
ワイヤーを止めてあなたをにじませてやまない雨に流れてしまえ
一杯のコップの水の上澄みの波紋に怯えるのはもう終わり

人間はほとんど水でできている天地をいつたりきたりする水

頬つたうみずは地面に吸い込まれ怒りの瑠璃玻璃結晶となる
降る雨を歩こう傘を喰い散らす合成獣類群に続いて
ピアノ弾きの Prestissimo' Allegro の楽譜のマーカー液 あお裏写り
断絶の兆し見ゆ かの環状路再構築の驟雨稟議書

なおも夜。月はしづかにしのびより水煙草壳の少女を照らし
磔刑の前夜、滴る葡萄たち声ひく語る犯罪理論

六月の夜

ビニール傘を開く人たち

アマプラで映画を観てた犯人は恋人で雨ばかり降つてた

溶けそうな六月の夜引き出しの奥の奥たまごっちを見つける

伝えたいくだらないことばかりありコップの底に残つた氷

僕にだけわかる言葉で僕が言う 次に会えたなら海に行きたい

テーブルをボケットティッシュで拭きながら離れてるんだなって思った

どうすればぜんぶのことが届くのか明日は梅雨の晴れ間らしいよ

泳一 @Ejshimada

大橋春人 @hachidax2

ひとり

しんしんと海に沈めばしんしんと星空に浮く 広すぎる部屋

朗らかに笑うあなたを陽だまりにそっと置いたらこぼれる涙

そういうのほとんどを占めるいろいろのあなたに落ちるあおになりたい

海もまた空なのでしよう海亀の羽ばたくように動くまああし

息ひとつ生まれるあふくの美しさ 海の光の空の水面の

水搔きが今朝また少し増えていて昨日より上手く人波をゆく

眩しい背中

六月の雨は重くて沼のよう猫もわたしも尻尾がながい

耳の水が飛んでも跳ねても抜けなくてあなたの声をぼわぼわと聞く

泣きながら卵を落とすウミガメの黒いまなこに浮かぶ満月

噴水の向こうに座っている人の眩しい背中に嫉妬している

肩と肩触れあうごとく踊つてる卵をくるり箸でまわして

魂は小さな毬藻 水底でいつかあなたと暮らしてみたい

枝豆みどり @edamame_midori

大森千里 @C1960928

六月はしかも水無月枯れてゆく早明浦ダムのようなこころを
何ならば消毒液の雨が降るそんな夜更があつても良いか

永田さんみたいな眉の老人が雨の自転車を漕いでいる

雨冷えのアマビエの貼られた窓の奥のカレンダー いまだ三月

著しくデフォルメされた街並みを雨が溶かしてゆくまで見てた

駅ナカのピアノ鎮魂歌となりてビニール傘を開く人たち

今年の六月

お茶を飲みながら読書会

体温を毎朝測るようになり必然的に平熱を知る

駅までの道に紫陽花あぢさゐと書きたくなるほゝ色濃く咲いた
自販機に百十円を流し込み形取られた飲み水を買う

いろはすのペットボトルは頗りなく駅のホームにわたしが滲む
たつぶりの水で飲み干す頭痛薬 雨の季節はもうすぐそこに
まだ水に湿ったままのくちびるは白いマスクに押し込んでおく

畠田奈紀佐 @spice16g

@kaizen_nagoya @kaizen_nagoya

駿ちゃん

レモネードに生姜を入れるばあちゃんのふやけた指のしろさを思う
送り火を焚いてしづかな縁側にあえてかなしむために座つた

半年ぶりに会ういとこからゆずられるカードのしまいこまれた匂い

都会の子、村の子と呼びわけられて村のプールの塩素のきつさ

駿ちゃんになって過ごした二週間 川べり とおい山の稜線

水をまく アスファルトには一瞬のみずうみ ぼくはまた走りだす

貝澤駿一 @y_xy11

かわえ @kazae_es

会えない朝に五月雨が降る

君思つ そちら元気にしてますか 雨が止んでも会えない四月
君思つ こちらは今日も晴れてます 雨のち晴れの会いたい五月

寂しいと思う気持ちは霧雨の如く胸刺す四月七日

特別な日は日常に溶け込んで食卓に載る梅雨入りの報

思い出を画像の中で手繕りつつ去年の紫陽花眺めておりぬ
歩けない君に青空を見せたいとあめふりくまのこ歌う昼時

雨の日は「植物図鑑」重すぎるブログの電子手帖にまとめ
お茶お菓子本の装丁花畠写真に踊るみんなの想い

河原にて日向ぼっこで本を読むamazonレビューは一万冊に

茶器ブックカバーの自慢や楽しさが伝わって来る写真の飾り

読書会紅茶を淹れて書きかけの歌集の感想「登録」を押す

ネットにて「お茶を飲みながら読書会」ペットボトルのお茶大歓迎

行く水

水源地より遠く離れしわが街に「プール開き」の知らせ来たりぬ
面接のまえに一杯水を飲む心はすでに乾き果てたり

種まぎに疲れし少女さそい出し水平線までヨット馳せらす
眠りいる裸の青年こんこんとその裡に湧く水と精液

夏をゆく川の光になりたくてひとりぼっちの君に手を振る
水を抱き水に抱かれて人は生く一輪挿しの薔薇の淋しさ

梶原一人 @MrDekopin

朽ち草の川

「董狩り、なんて物騒」おどしも去年も言つて笑つてたつけ
内緒ばなしの終わりみたいな顔をして指を差しては光つたと言う
僕だけのそばにはいられない君だ 瞳の中董は濡れる

こつそりと触れるだけでも温かい手なのだろうし触れないけれど
好きだったと呟いてみるわたしもと呟かれてみる涼しい川の

じやあねつていつたらきつときよならでまたねのなかじやないからきつい

大海原

うつくしくト音記号を描くひとに水の深さを教へてしまふ

タオルから夏のにはひのただよひて梅雨の晴れ間にビールを飲まむ
すこしだけ死にたく思ひ塩蔵のわかめの塩を水に流せり

金色の雨を浴むれば思ほゆるアードベッグのうしほの香り
権力に弱きをとこゆ降る指示に驟雨に播らぐ池を思へり

この道を歩いてゆけば着くだらう意味ひとつなき大海原に

門脇篤史 @508atsu

60%は水

洗濯機ゆらす渦巻きぐるぐると今日の晩飯さえ決めれない

上水道 俺のからだ 下水道

野菜炒めがほどよく出来る

ラーメン屋で出されたコップ一杯も出会いとすれば出会いあふれる

政治家も60%は水らしく偉そうな水の演説を聞く

お風呂場は今でもきみが住んでいてシャワーが胸をノックしていく

蛇口から解き放たれてあかねさす水流まっすぐにおちていく

梶原翔星 @photo_kajiwara

がね @amicus08

湖岸

湖岸線走っているとビーチにはチエーンがされて駐車禁止に

感染の防止のため他県からの車入れず春の琵琶湖は
図書館の裏山にある墓場から墓石と共に湖を眺める

人間がいてもいなくとも潮は立ってアオサギ脚を浸して
もがいてもがいてもなお外海に出られぬ真昼陸上の船

夏の風駐車場まだ封鎖され夜勤が明けて湖岸を走る

涸れ井戸 @kareido1111

幻想青瀬 @genso_aose

子ども時代の欠片

道路から堰に足入れ上流へ帰る子らの麦わら帽子

プールから滴り落ちた水滴が去った子どもの足跡作る
雨上がり買つたばかりの長靴の性能試し歩み続けた

初めての一人で旅行車中から屋根の雨音僕の御守り

教室に居場所失い誰も来ぬ湖の隅トーテムポール

賑わいの海のそばには人知れぬサンダル一つ相棒を探す

水禽を追う

よこしまなこころが透けて見えそうでひかえめに手と喉を洗つた

あたたかな土地から来れば疑いもなく受けとめて微雨のさびしさ

あつさりとなめらかになるチョコレートうすまりやすい夏のココアは

父のない子となり横にはりついた目で前を見る水禽を追う

愛されている存在のはずなのに目薬のつぶうまくさせない

革靴に防水スプレーふりかける尖ったものは溺れやすくて

赤錆

姉がいた和室は潮のにおいしておそらく人魚だったと思う

水牛の揺らすリズムでたましいがゆるゆる溶けて離島の海よ
リラクゼーション音楽を選ぶゆび海から生まれたの知つてゐる

潮時を逃した彼と今日も行くファミレスにある鉄臭い水
上京しあなたは二子玉川をニコタマと呼ぶ真白な肌で

生きているだけでせかいにゆるされる土砂降り雨の土曜の午後は

京野パンダ @kehunopanda

漕戸 もり @muanamy 3939

ぬるま湯

あなたは遠くを指すことばで やょうなら、あなたに降っている夏の雨
瑠璃鶴だった夢からもどりつつのこりの水をお花にあげる

泡だらけで生活すればたのしいんでしょう よごれたうさぎを洗う
ぬるま湯はひかりにもぶい水無月のバスタブに浮くわたしのからだ
喧騒が染みつく耳をやわらかく煮込めば野菜スープの甘み

引っ越してから踏切をみていない みたいな、サイダーとか飲みながら

小泉夜雨 @kozumi_yau

糸村

ぽん酢2

引用にまみれる日々よぽん酢よりぽん酢の味のするもののなく
ぽん酢、の、日めくりカレンダー考えて五月半ばにネタの尽きけり
居酒屋の瓶のそういう並べかたをぽん酢でもできると知りしのち

口癖を「ぽん酢」にできる「あつ森」に小さき魚影の翻りたる
小学生向けの「たぬき」の暗号と、そう、ぽん酢でいただくお肉
Ponzu is delicious. という片言を和訳したものなり言つたのは

水にまつわる覚え書き

外国の味だと思い飲んでいたウキルキンソンは兵庫の生まれ
コカ・コーラの瓶みたいに、水底でひとり静かに透き通りたい
この水はいつかの海か 蛇口から流れる水をグラスにためる
もういいか 雨が降る朝、今出川通を東に歩いている

紫陽花は雨水の染み 夕と夜を溶かし世界を滲ませていく
なにもかも静かに死んでいるようだ。冷めた湯船に溺れる夜は

街を洗う

遠くなる傘を眺める人混みを分けて追うほど好きじやなかつた
いっぱいの水を貼り付けバスはゆくけやき並木に雨のそぼ降る
靴下の内にふやける足指のやわさを想う夕立の道
どこまで止めればいいかいつの間に知つた泣かずに剥ける玉葱
「いろはす」の弱さが嫌いこれ以上ないほど踏めばすこしくすんだ
側溝のガラス破片はそれぞれに違う向きしてはね返す空

御殿山みなみ @10okat2

西藤智 @hitonosulab

雨と僕と君と雨

雨を待つ

雨の日の想い出ひとつじゃないか 雨で世界の 色が流れる

あまぐもに絵の具まざだらにかかるかしら 雨は色づき 街はカラフル
サンダルではしゃぐ雨降り濡れる君 「はだしになれば」と甘いささやき
声合わせ「セーの」で君と駆けていく 降り行く雨も 振り切る速度で

雨宿り こぼれる雨とこぼれる言葉 君が好きだと ちゃんと聞こえた?
雨の日の想い出ひとつ作るたび 雨が色づき 好きになつてく

さかがめ @sakagame00

嶋田 れくわい @sakaraku0304

傘を卸した日

雨粒が葉っぱを叩く音がして切り上げた夢を思い出せない

朝シャンは髪に悪いと聞いたけど多分嘘だよ 気分がいいし

オシャレでもコーヒーミルは手間だからインスタントを淹れる、味わう

世界では何処かでまた血の雨が降る私は今日、傘を卸しました

今はもう飛び越えられる水たまりアメンボとは合わなくなつた目線

寝る前にコップ一杯の水を飲む乾いた心が湿る程度の

葉脈にそつて零れる

ビニール傘にぽつりぽつりと弾けゆく雨音きつとこれはとおり雨
葉脈にそつて零れる銀色のひかりの粒に濡れときぬぎぬ

紫陽花の花びらにふれわたくしの雨はこんなにやわらかくない

海へつづく煉瓦造りの街区この水面いつから海を忘れる

汽水域を漂うような残像にふれようとして弾けてしまう

忘れるな、と叫んでくれた小雨降る運河をこえてゆりかもめ鳴く

三 梓 モ ニ オ @monio_sankozue

西 鎮 @xi_zhen_ivUT

晴れのち雨のち嵐

ウユニ湖のように

「春の雨の味だね」「かもね」そうやつて今日から特別になるエビアン

砂浜の足跡つぎつぎ溢まれて永遠なんて信じてはだめ

もう降りることのない駅の自販機のラインナップを日記に残す

スエードのブーツに雨は染み込んで泣きたいときに泣けばよかつた

カビ取りに躍起になれば感情の透明になる瞬間がある

2プッシュ分のリンスを手に受けで今日も誰かを押しのけ生きた

芍薬 @yuritanayogini

鈴木智子 @cfun8820_ts

水辺の生きもの

無理に流さなくともいい豆皿のかへるにふはり洗剤の泡

岸辺のない海に扮した少年は漁屋で魚を浮かべてゐます

かへるをかべに叩きつけてはいけないと読みきかせてゐる祖父の口髭

子供フィルターを使ふときみは微笑んでおたまに見えませんかと云つた

標本になつたウォーレストビガエル今はしづかに目を閉ざしをり

密室事件は解けるだらうか洗ひ熊は倦むことなく手を洗いつづける

かたわうの水

ほんのりと甘く感じる水だった祖父母の家の水道の水

梅雨の外出は雨との競争だ

帰宅と降り出し、どちらが早い?

やんだかを知りたくて見る窓の外 水たまりにまだ雨が刺してゐる

右下が「水」になつてゐる「様」の字で誰から届いた便りか分かる

魚には棲めない水を湛えてる湖面のネオンブルーの冷たさ

波立つた心を嵐に戻すのはわたしに落ちる淡い月光

雀來豆 @jacksbeans2

諫訪灯 @_skydew

粘度

糊の中浮いたあぶくとそつくりのため息だろうここが水なら

冷蔵庫のうなりの隙間 水葬はいいな ときみと読経している

水よりも水らしくない切り傷で染められている流水を見る

吐き出した体液にない面影を探つてしまい水、と呟く

洗う手に菌が残るかわからずにくちづけるだろうここが水ならため息で封筒を閉じ糊の中浮いたあぶくの水葬をした

梅雨になるまで待つて

空梅雨の預言者となる薄藍の襟なしシャツの正攻法で

行き合いの子猫をなでる手には傷ね、アコースティックギター弾いてよ

梅雨寒をロックでちようだい間違いの多い私ときみに乾杯

傘と傘すれ違いざまよけるときひとの孤独と応答をする

雨と頬の出会いだなんて他人事のようにきれいに記憶しないで

思春期が終わるアイコス点す夜ただそれだけの海 無音かな

千仗 千紘 @Chihiro_Senjyo

たえなかすず @suzusuzu2009

雨と距離

ああそれじや教えたげるし待つてよ口実とする駅までの距離
アーケードは終わりを迎え速やかに傘のぶんだけ開かれる距離

跳ぶために力の入る唇の「んっ」のかたちが水溜りの距離

ぴんと反る人差し指と花びらに水をたたえたツツジとの距離

ひとりなら走つて渡る点滅の信号から信号までの距離

駅北のロータリー傘のぶんそしてもう少しだけ狭くなる距離

ソウシ @sixia0uT8BMBlgp



神田川（コロナ版）

やがて、濁流

逢いたくて逢いたくてひじまで濡れる夜も神田川にはコロナの噂
赤い手拭なんて持たないだつてもう、お茶の水には風呂屋はないし

バスルーム開ければあなた一人だけ胎内標本となる水の中
コロナとかステイホームとうるさくて今日も逢えない駅のホームで

神田川流れていれば早緑に染まつてわたしひとりで暮らす
虹なんて月並みだけど大空にかかれば明日は逢えそうになる

多香子

田村穂隆 @Da_Ho_Ra

夜巻く渦

浴槽に捧ぐ溜め息飲み込めぬ嘘止め処なく滴る憂い

汚濁した肚の底から湧く自由喉の深くへ沈む協奏

何もかも洗い流してしまいたい夜巻く渦は激しくていい

消毒の液に消される毒を思う汝の罪を赦す海原

穿られた溝を自在に泳ぐときそこは銀河だ薄紫だ

渾沌の記憶を漱ぐ濃く淡く泡^{はうま}沫は満つ優しい最期

追認

実際はしていなかつた後悔を口にしたとき降り出した雨

テーブルをふけばわざかに水滴の残つて始発までここにいる

永遠に愛することの苦しみよ喉に刺さつた人魚のこぼね

燃え尽きた花火はひとり砂浜に夜を支える背骨のように

するすると飛ぶ鳥の群れ 追認をするかのごとく空は明るむ

花は桜、君は誰 終止符の対義語として置いてゆく傘

憎しみを使い果たしたこの胸にけれど小川は流れ続ける
混色の果ては明けない夜のいる今さら抱きしめられたくない

水底に朽ち果ててゆく樹のようなそこに悲しみ棲みつくような
石鹼をタオルにこすりつけるとき尖りはじめる明日の予定

雨後の風、そして日差しの激しさよわたしにもその怒りが欲しい
わたしの中にいるたくさんのがわしたち殴り合うから崖に来ました

瀧口美和

@abcdefgijklmw

たろりずむ @tarrorism

雨の信号

6月8日

どこからか雨の匂いはふいにきて呼び覚ますいつかの帰り道
水彩画みたいな午後だ 前をゆくあなたのシャツが淡く滲んで
信号はもう変わりそう 補装道路アスファルトしぶきを立てて飛び越えてゆく
地下鉄の階段口でじやあまた、と傘をたたんだ 帰つてしまふよ
感情のしつぼを捕まえるまでの長すぎる雨 いますぐにあいたい
透明な心がほしいあのひとを想えれば音もなく濁る胸

千原 こはぎ @kohagi_tw

月丘ナイル @nyyle_222

スローワルツを

雨雲に覆われていく夕空に残されし赤い時を見ている

頑なな意思がゆっくり解かれて笹の葉 慈雨に開かれていく

溶けていく氷が水面を生み出してグラスの中に沈む約束

一斉に咲いたふりして濡れている紫陽花の過去を僕は知ってる

今、雨に濡れたら僕ら溶け出して憎しみ合ってしまうのでしょうか
「さよなら」と叫んだ声を搔き消した優しい雨とスローワルツを

宝石

明朝の外の寒さに室内は霧立ちのめりブールも消える

子供らは百花繚乱戯れる水底の宝石を目指して

ゴーグルの奥に見えてる表情がグラスの中の水中花めぐ

飛び込んで羊水めいた居心地に母と聴いてた曲思い出す

おばさんがブールの中から「ちょっとそこーあなたよあなた。じいみでんのよ」

帰り道塩素をまとう我々は蟬の合唱団に溶け込む

chari @greenchari2

つぶら満月 @tuburamanagetu

夏末満

安物、火と木、不要不急

お互いの住む町に今日降るらしい雨を詳しく見ていきましょう

六月を責めることなくいつ来ても濡れている芝生のせいにした

見た目より水がそこまで入らない電気ケトルが役に立った日

かき氷の画像を送り合っている おいしそう、つよそう、かつこいい

なんというかジンジャーエールを好きになる気がする暑さ 去年と違う

フリスビーを投げているより追いかけているが日曜日を占めていく

橙田千尋 @komekokakari

とみいえひろい @hirocodori

モーニングコーヒー

風の音 ガラスをつたう 涙雨 傘を手渡す 眼そうなきみ

名づけ親 洗礼者と同じだと 犬 泡だらけ 「ジョン」と亡き人

リード紐 手に手をとつて 散歩道 アイスを食べる きみに降る雨

サメみたい ぼくの犬歯を 笑うきみ たぶん役立つ 海の中なら

犬とぼく 曇天の海 雨宿り キツチンカレーに コーヒーの湯気

夏の宵 アイスコーヒー 浮き水 ひび割れる音 耳を叩いて

鉄の卵

鉄塊のアマビエが手のひらに乗りわざかに沈み鎮まる光

アマビエは一寸と五分 湯で煮れば滋味の湧き来るくろがねの身そ

平均律クラヴィーアまた雨が止み立ち尽くすにはお似合いの階

沼の辺の水木に留まる五位鷺のヴィオラつてつまりそんな音色だ

額いくつ引き千切られてあじさいのだが球でありつづける紫紺

首すじの軽い引き繋れなだめつつ振り向けば月、蝙蝠の道

ドーナツ @donut_no_ana

中村成志 @nakam8

無題

白い月 かつてあつたという水がかすかに透けている白い月
集めても何になるのか分からない今まで集める涼しいシール
扇風機前でふあんふあん喋るからふあんふあん國の国王でしよう
ばらばらになってしまったさんずいの一等青い海のさんずい

繰り返し見る淡い夢トンネルを抜けない今まで目覚めてしまう
あと少しやさしい人になりたくてひらがなで書くめがまうすざめ

ナタ力 @utanataka

森を包む

よく来たね森の目覚めを少しだけ遅らせて いる霧がささやく
ミルクにはなれない霧は野いちごの赤をぼわっと浮かばせている
艶めきを増しつつ蛇は霧を縫う楽譜にスラーーを書き込むように
もしかして森を包んでいる霧はきのうは山の雪だったもの
暴力とは無縁のような顔をして霧は零へ姿を変える
霧に似た花の香りを霧の香と呼べばばかりに帰路は明るい

桝原もか @kiharaneko

循環

故郷の一番大きい湖は川になり海になりました雨
朝露が光る曇りの日の窓の紫陽花今日は色が違うな

クーラーが効いた部室は空っぽで凍つたお茶はまだ早かつた
巻き髪と服の色しか違わないスープパスタを啜る女子たち
昼前の恥と嫌悪を石鹼の泡の匂いで溶かしゆく風呂

寝る前の一杯が明日を決めるカプセルを押し流す渓流

成美 @2901palm

みづとまつり

サイダーのシュワシュワみたいな水玉の浴衣おろした初デート、夏
カラコロと下駄の足音軽快に君の待ってる川沿い小走り
川沿いの先に浴衣の君がいて照れくさそうにおう、と手を上げる
浴衣どう?と尋ねてみたら目を逸らし君は呟くカルビスマみたいと
やるよってぶつきらぼうに渡されたラムネは少しづるい甘さだ
下駄の御手洗池に足浸し君と繋いだ手のあたたかさ

じゅ @niuniuworl

聖地

ハギビス（2019.10.11）

トイレ用プレイリストのほとんどが大森靖子ちゃんの曲だよ

暗闇でひざみろさんのツイートを思い出してるセンサーのアホ

神様の存在証明。ねえ見てて、これから便器にスマホ落とすよ
音姫で消えちゃうくらいの声量で「好き」って言えば、これも排泄

使用済みナップキンあげます羽なんてあつてもどうせ飛ばない身体

アタシにも防水機能はついてるし泣いているけど、たぶん平気

西淳子 @Jacky244Ray

沼尻つた子 @numatsuta

くらげ

たゆたえればだれよりつよくあたたかいくらげだ（クラゲ視点の朝日）

ルールだと教わったから手招きをされたらまずは抱きつきに行く

透明なままのくらげと日光を蓄えすぎたくらげが並ぶ

ぼくかきみか分からなくなる触れ合えば指の先から似た熱を持つ

夢の中まで付き添えはしないけど抱きしめ続けることなら出来る

真夜中の海月二匹が完璧なワルツを踊る水槽の端

バスルームで髪を切る

浴室に不似合いなもの代表のスポーツロゴ入りレジャーシート

鼻歌はちよつきんちよつきんちよつきんなぼくがうさぎで君がかにだな

三センチくらい短くしていいよ二ヶ月分のぼくよ、さよなら

前髪を切られるために目をつぶる銀色つて鋭い色だ

シャワーから水滴落ちて二人してひえって言つたマンガみたいに

排水口に突進していくばくだったものといっしょに踊りませんか

西村春希 @haruki_4911

薄荷。 @aieohimeco

はじめての地への配属十日めの吾に轟轟と来たり、台風
洗車機に突っ込むとき雨風の朝それでも出勤はせり

うすっぺらい名札ぶらさげおろおろとするうち職場が避難所となる
食糧も水も配れず桧皮色の毳立ちし毛布を渡すのみ
雨音のとどろく部屋の数十人みな感情を折りたたみ座す

川べりの地を護りきし堤防は堪えておりぬ、いまは、されど

きつと

タイム・アフター・タイム

コンタクトレンズを嵌めて偽物の涙と偽物の朝が来る
おひるねの夢から醒めてじんわりとあふれる涙は代償である

泣いた分だけ世界から水が減り明日はきっと晴れるはずだよ
降る雨の軌跡Rと精神体Iが交わるときの時刻t

明日は雨、もしくは曇り、または晴れ。わからないのが幸せだった

思春期の高校生も長雨も必ずやんで固まる地面

春名 桃夜 @masatokun32kt

元始、海月は太陽だった

虹色に透ける肢體を揺らめかせ太陽になる真昼の海底
匂い立つ静寂の中聞く呼吸音は確かに焦がれるリズム

足搔いても無駄だと知った絡みつく想いはたとえば錨のように
貝殻はつづいてみても閉じられたままで誰にも知られぬ幸運

塩味は時に苦くて目を瞑ることはわたしの涙じやないの

黄昏が薫る晩夏の砂浜で我が身枯れても世界を照らせ

海まで五分

藤村 内向 @fujimura_naiko

きみはカフェ・ラツテと発音することを知った日だった。街に遠雷。

湿度100パーセントって水中と変わらないねと笑ってる客

「海を感じる時」を読んでいる／向かいのきみがマフィンを崩す

待つことは得意だからね水差しの硬水が蒸発しきるまで

雨脚を言い訳にしてB面はあと一曲を残すばかりだ

夕立と呼ぶにはすこし早すぎる季節にチエット、歌をうたつて

福山桃歌 @peachsong_521

藤森岬 @xk5RX1A8F46kakn

結晶になるまで

梅雨が好き

脚色をほどこされている思い出がごくごく水を飲んでも飲んでも
貸したまま返つてこないパークーの好きなところと駄目なところ
カーテンが風に押されて少しだけ中身の残るペットボトルが

湖の上に浮かんだひとひらの木の葉のように過ぎせたらいい
雨の檻閉じ込められて昏くなる部屋はもうすぐ結晶となる
囁りが上手くなりたい意味のない言葉をずっと発してみたい

かうみうり @Am34Tt

真岡まな @mao_or_mana

ウォーターサイド・ウォッキング

真っ黒な溝を見つめる妹に行こうと声かけ返事は二重

舌の裏に溶けた海を触ろうとして行方がわからなくなっています

「おねえちゃん、なくしものへぐしてあそぼ」今日は泳ぎに来たはずなのに

濡れた足音に震える妹を見ると人形みたいに笑いだした

留守電にちやぶちやぶちやぶちやぶり よかつたね ちやぶちやぶちやぶちやぶり

翌日に打ち上げられた母親はぬらぬら鳥賊の目と足まみれ

みづあか

雪だった頃の記憶は蒼白い 水だった頃に比べてすこし

原付のヘッドライトを照らしたら紫陽花はまだ夜を知らない

許すとは愛とは違うものですかシンクに残る水垢を拭く

新品のビニール傘に新品の水滴がまた跳ねては消える

あらかじめ用意していた答えだしこれは自分で育てたトマト

いざれ夜。これから雨が降るらしい水は軟水それはゆずれん

「君のこと」雨の音にかき消され聞こえなかつた「好きなんだ」
ポタポタと涙をきれいに落としたら波紋ができるの?ここにも
傘のうち鈍い雨音耳にして叶わぬ予感君への想い

「梅雨が好き」めずらしいねと言つたなら不思議な顔して君がみていた
海に来て知らない間に消えていた砂に書いた「あいしてる」

転んだ砂に足をとらわれて流した涙も海の一滴

ブルーウェットのみ乃

@BLVIEWHET

街田青々 @bluesuqreme

ぼくらの背徳

水溜りの底にゆうるく反射して君の輪つかが鈍くなる初夏
色水になった氷菓をたれながす雨がぼくらの背徳を割る

図書館でまいにち飲んだ水の味みたいに惚れてしまつた天使に
ぬるすぎる初夏の象徴としてぼくらの市民プールは潰れるらしい

製氷皿から転がして五月雨を忘れた君へ差し出す化石

はじめての歌集につぎつぎ青色の付箋を貼れば呼べている海

真水翅 @xxmmzz00

満島せじん @seshinmitsushima

ボーナストラック

雨が降る日には別れを言い出せず 傘を持たずに来る人だから
後悔にたやすく染まる紫陽花のたしか去年は青だった道

金色の雨がほつれを縫うように私とあなたを交互に濡らす

この場所で好きと云われた変わりゆく街の変わらぬ店の珈琲

思い出という名のマベパールを外す 球形だって信じていたね

雨上がりのボーナストラック最後かもしれない虹をあなたと待った

水無月六景

つまらないことなんてない遠く見る海もたなびく古着のシャツも
透明な風に吹かれて揺れているハンモックから見る水平線

傘の中少し不安な顔をして我に抱かれる六月の猫

艶やかに美しく咲け雨の中オマエは震え叫ぶ紫陽花

蜂蜜のように明るく微笑んであなたが甘く嫁ぐ水無月

伸びしたら爪先までもひんやりと翠色した水無月になる

翠雨の庭

六月の呼吸はきっと鰐呼吸 空の遠くをぬんと泳いで

ひかりひかり陽の照る庭に雨の降る恍惚の中あなたは生まれる
ソーシャルディスタンシング 嘘つき 肩パンをくらつてくしゃつて笑うさみだれ

雨の日のしけた煙草が不味いこと あなたの笑うと八重歯が出るね
叫ぶようにまっすぐ落ちて一生分光る雨粒たちの数秒

みどりいろ 固定資産に入らない 翠雨、あなたの庭で跳ねたい

深影コトハ @cotoha_mikage

衣末 @mimi_4567

水の都に雨が降る その弐

雨つぐ底

堀川の落ち合う崎の茶房にてやまない雨を眺めています

雨だれは鼓の拍子小気味良く袖振り踊る河岸の菖蒲

四十間堀川沿いにガタピシによく似た犬が尻尾を振つて

水飴を買う母親は大雄寺驟雨の洗う墓石の下

あじさいが青から赤に変わる夜大亀の歯にあたらしい紅

雨雲が流れて松江大橋の擬宝珠の上に光る露玉

宮嶋 いづく @miyazima_izq

虫 武 一 傑 @mushitake

パノラマ

描かれた遠い港に日は暮れてそれは誰かのふるさとの色

永遠に予感のままの雨を待つ静かな丘のある展示室

ジムノペディ繰り返される温室に絵のように広がつて睡蓮

フランスの河はこの町の梅雨となり多湿な部屋を彩るラヴェル

いくつもの画面からオフィーリアは消え講義室を吹き抜ける夏風
カレンダーは家を出た日のまま揺れるシスレーの淡い水を湛えて

のどぼとけ

清水の舞台ほどではないけれど新地のランチ横目に見つつ
夜の街に酌んで尽きせぬ水鬻きおかみの掌より零れおちたり

泥水舐める仔猫穢しゆふたちのあかる参道傘を窄めて

くさめして飛沫はひとを死なしめん大河とならばひとるほさん
水を呉れと泣いて果てにし兵士のこと氣塞ぐ夜に臥してぬ寝るも
こんなにも喉が渴いてゐるからは水要らずといふわけにもいかぬ

消防用散水栓と消火栓の違いを思う 駆雨を過ぎて
污水槽清掃という必要な嫌悪終わればすぐ服を脱ぎ

易操作性一号消火栓の易の一音を舌に乗せてやり過ごす

とりどりのバケツを置いて受けている地下街に特に倦む感情を

地の底は雨のつく底この話の終わりばかりを考えている

冷却塔の底に汚泥をすくい取り取つては捨てて終わるひと夏

み や や @miyaya_tanka

最 寄 タ キ @XavierCohen

僕らの地球は水没し

みずうみ

満ち欠けじやなくて潮だねさつきまで触れられるほど近くにいたのに
きみの嘘グラスの結露プロセッコ。温度差という名の残酷か

一雨が作る区切りが恋しくて靴履きながら長傘掴む

溜め込んでいらっしゃいます?はい／いいえ。「選ぶ」権利があるのだろうか。
川。どこか潔くても深淵で引き止めていた気泡があつた

生物の講師が言つてた「僕らの体は水没し」信じて泣くよ

森川 晴 @haruto_papurika

山上秋恵 @akiemuroran

絶対零度

満杯の電気ケトルの沸く音と茶碗の縁にふつと目をやる

無防備のつむじを狙う天井の滴り冷い旅の朝風呂

いつまでも温い真夏の蛇口から舐めたこともない赤い錆の味

塩っぽいポテト片手に噛み碎く苦い水と解けないパズル

玄関の雪に熱湯振りかける南の人よああ白煙

誰にも水一滴にも慈悲のない永久に平らな絶対零度

水滴

打ち切りの漫画を買ひて店を出づ雲の下にも雲動きをり
信用と信頼の差よ おそなつの変電所へと降る天氣雨

秋雨をくぐる列車の窓にあり無数の傷のごとき水滴

浴槽へ湯を入れ直す手の甲に白髪ひとすぢへばりつたり

くさめして顔を上ぐれば水分のすこ少なき世界と思ふ

製氷の音かそかに聞こゆ夜半覚めてふたたび眠るまでのあひだに

八重柏巻一 @YaegashiYoichi

山川築 @Wonderful_Maze

ソーダ水の中で遊んだ夏休み 君は普通の友達だった

母からは初恋などと笑われていたがソーダは澄んだグリーン

君も私もみんなうたが好きだった 「みずうみ」といううたが流れた
“恋と氣つかず恋した夏”つてなんだろね 小四にしては無邪気なふたり
ソーダ水のグラスが翌年割れるとは思わなかつた幸せな夏

友達のままで別れてよかつたな それとも “恋と氣つかなかつた”? ?

まつすぐ海を

天が泣く

震えてて、受話器を置いたとき外は大雨だから頬も濡れてて
ここじゃもう乾いた喉を潤せずただひた走る鍵も落とした

石くれや雨や私や数多など素知らぬ顔で川は流れる

枯れるまで汲み出せ枯れるその刹那までは汲み出せかろうじて人
水底へだろうと君は踏み入ってやけに静かな福音でしたね

数多から波は静かに隠しゆくまつすぐ海を向いた足跡

夜夜中さりとて @yorusari

ルオ @ruo129

さよなら、またね、なんて言わない

バスタブに誘われていることですらデートだなんて思つてた、夏
炭酸の抜けたサイダー好きだつたあいつのものをただ捨てている
ぐしゃぐしゃのサンダルちよつとかなしくて青になつても進めやしない

コンビニがきらきらひかる雨の日の夜はたくさん宝石がある

ビニールが濡れないように抱きしめて抱きしめたのに行き先がない
スキップで蹴散らしていくみずたまりさよなら、またね、なんて言わない

龍神が言祝ぐよう雨が降り清めた空で世が改まる

友に会い別れる時の大雪を遣らずの雪ときみは言わない

在りし日の笑わすためのおしろいと似た雪が降る春の夕暮れ
曇り空「いや雨だよ」の声がするそれなら今日は雨は止まない
雨音ときみの努力と共に聞く明日は晴れるきっと晴れるよ

雨が降る疫病流行る街々に清めておくれ清めておくれ



mizutsuki_9
<http://kohagiuta.com/design/mizug/>



2020年初夏 「水」がテーマのアンソロジー みずつき 9

発行：2020.06.15 | 短歌：ご寄稿くださった皆様 | 企画・編集・装丁：千原こはぎ